

2024年度 学校法人修道学園事業計画達成状況
 <広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

○ :実施した △:実施中 ×:未着手 2025年3月31日現在

主要項目		具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
Ⅰ 協創教育の推進						
1	教育目標達成の取り組み	①生徒及び教職員が「建学の精神」(報恩感謝・実践)並びに「教育目標」(グローバル・イノベーション・リーダーの育成)の理念を意識した教育活動を行える環境を整え、この理念を全教職員が言語化できるように努める。 ②本校で行うすべての教育活動を「協創教育」と位置付け、その基軸に探究的な学びを据え、教育目標の達成を目指す。	「建学の精神と教育目標の言語化」について教職員に提出させたレポートに基づき、学校長が面談を行い、個々に組織の一員であることの自覚を促し、学校の向かうべき方向の再確認を行った。 学習活動や学校行事において、その目的とともに協創ルーブリックを用いた計画を練り、これに基づいた行事等の遂行を心がけた。また、生徒自身が協創ルーブリックを用いた自己評価を定期的に実施(今年度は教務部が主管となり、学期に一度実施)することで、生徒自身の振り返りや成長を見える形で確認した。また、これをもとに今後の学習活動や学校行事の在り方や計画を再考し、生徒が意欲的、主体的に活動することができるような仕組み作りに取り組んだ。	全教職員、 管理職	通年	○
	2「探究力」(4つの力＝課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①教育目標達成のための「探究力(4つの力)の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について再考し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」のブラッシュアップも図り、「協創ルーブリックとの整合を図る」。	今年度、新・協創ルーブリックを作成し、学期末に2回、自己評価を実施した。また、公開研究授業を実施し、各教科の授業におけるルーブリックを使ったパフォーマンス評価の実践を行った。年度末に向けて達成状況を確認していく。	教務部	通年	○
	3GCP(グローバル・コンピテンス・プログラム)の推進	①教科横断型で特色ある授業のGCPを探究活動の中で取り組み、「探究力」(4つの力)の向上を目指す。	外国人講師と連携をとり、意欲的に活動に参加する生徒だけでなく、英語を苦手と感じる生徒や活動に消極的な生徒への対応に向けたプログラムの作成や取り組みを考えながら、協力して授業支援を行っている。	協創教育部	通年	△
	4国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	姉妹校との相互訪問や短期留学は一部中止となった部分があったが、異文化交流・国際理解教育を目的としたアウトリーチやNZへの中期留学(18名が参加)、校外における留学プログラムや異文化体験プログラムに積極的に参加する生徒が増え、国際理解教育の推進に向けた取り組みがある程度、形になったと考える。しかし、学年・コース間では意欲の差がみられるため、すべての生徒や保護者に対して、本校の国際理解教育プログラムやその意義・効果などを周知し、たくさんの生徒がこれらに積極的に参加することができるように工夫をする必要がある。 広島修道大学の留学生による語学講座(2024年度は韓国語)を実施し、多くの生徒たちが英語以外の語学や文化に触れ、理解を深める機会を得た。ただし今年度は参加者の多くが高校生であったため、来年度以降は中学生へも内容の周知を徹底し、中高6学年が十分に学び、経験する機会を図りたい。	協創教育部	通年	○
	5ICTを活用した教育の推進	①ICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	公開研究授業や専任授業観察、授業実施報告を通じて全教員のICTについての研究が進むよう、次年度の実施向上に向けた支援を行った。	教務部	通年	△
Ⅱ 学力の向上						
1	学力向上の取り組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②「ノーチャイム」などによって生徒の自立的な時間管理を促し、授業に向かう姿勢の向上を図る。 ③10分間の朝読書を一日の学びのスタートとして位置づけると共に、読書活動の環境整備の一助とする。 ④LRC(ラーニング・リソース・センター)の生徒の利活用を促進する。また、各授業との連携・利活用を促進する。	教科主任会議を通じて、生徒の学力の分析を行っている。また年2回生徒アンケートを行い、そのデータを踏まえ、各教科で生徒の自学自習を促すような取り組みを行っている。 実施状況を見ながら、時間管理の意識を喚起するために一時チャイムを鳴らすようにし、現在に至っている。今後も様々な場面を通じて時間管理の励行を図っていく。 概ね生徒には定着しているように思われる。現在は実施を見送っているが、次年度は短縮授業等でも朝読書を入れるように各部署に提案していく。 コース選択・探究・日々の授業の中で、生徒はLRCを活用している。また、放課後の自習教室として、中高問わず利用している姿が見受けられる。そのほか、LRCからも様々な形で利用促進の計画が実施され、効果をあげている。	教務部 教務部、学 年会 教務部、学 年会 教務部、学 年会	通年 通年 通年 通年	○ △ ○ ○

主要項目		具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
	2「探究力」を目指す授業づくりの 促進	①参加型授業や探究的な学びを促進し、生徒主体となる授業 の研究・実践を行う。	公開研究授業や研修で得た知識や取り組みを日々の授業で実践できるよう、教科 主任会議等で情報共有しながら進めることができた。	教務部、探 究推進委員 会 探究推進委 員会	通年	○
		②新たな「探究」授業の深化を図り、その充実に取り組む。	概ね順調に実施され、企業や地域との連携など、生徒と社会の繋がりがも増加した。 その成果として実際に生徒の提案が商品化や政策実現に至った事例も見受けられ た。今後は今年度の実施状況をもとに、シラバスや今後の新たな取り組みについ て検討を行い、さらなる探究の深化を図っていく。		通年	△
Ⅲ 進路支援の強化						
	1 組織的な進路支援の取組み	①「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。	進路シラバスに基づいて、取り組みができた。高1・2年生では修大訪問、進路ガイ ダンス等の予定していた行事を遂行することができた。また、進路資料集は4月に 配布することができた。	進路支援部	通年	○
		②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜 などの対策案を企画・立案し、実施する。	高校3年学年団と合同でLHRやアクティブサタデーに面接学習会と面接模擬試験を 開催し、面接対策をした。附属校推薦の被推薦者に対してミーティングおよび面接 対策学習会を複数回実施できた。また、高校3年学年団を中心に、総合型選抜と学 校推薦型選抜対策として、個別に小論文やプレゼンテーション発表、ディスカッショ ン、面接練習ができた。	進路支援部	通年	○
		③「協創スマート予備校」など、効果的な補習体制のもと、進路 希望に応じた補習を実施する。	6月から放課後補習を高2・3全学年で実施するとともにスマート予備校を実施。夏 休みより中学全学年、高1～3まで夏休み補習、高校はスマート予備校を実施し た。また、2学期より中学3学年、高校全学年対象の放課後補習、スマート予備校を 実施した。さらに、高校3年生には共通テスト直前講習会と国公立2次試験対策を 実施した。スタディサブリの実施に関しては、配信機能を使用して苦手克服課題や 単元別の配信をした。また、生徒によっては自学自習の一つとして個別に取り組め た。 高校3年生においては、その成果が年内入試にも反映された。	進路支援部	通年	○
		④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人 面談を行い、進路実績につなげる。	中学全学年学力推移、高1・2スタサボ、高1・2ベネッセ記述模試について結果を分 析した。職員会議、教科主任会議で報告し教科指導に活かすことを依頼した。高1 の文理選択、高2の進路実現につなげるように学年団とも協力をした。高3の進路指 導について、ベネッセハイスクールオンラインを活用し、生徒に有益な情報を与え ると共に信頼できるデータに基づいて進路指導をした。今年度より高3進路検討会 を開催した。計3回実施し、進路希望検討会、途中共通テスト前検討会、出願検討会 を管理職、高3学年、特進コースと共に担任個人ではなく、学校全体の指導方針と して共有することができた。一方各模試の振り返りの時間が取れていないことが課 題である。	進路支援部	通年	△
		⑤2026年度からの修大・進学コースの改編に向けた具体的な 取り組みなどを示す。	修大との高大連携事業の整理を提案をした。追加事業や継続事業を決定した。また、 来年度の高校1年生からは新コース体制となるので、4月に行うオリエンテー ションの内容を検討・実施していく。	進路支援部	通年	△
Ⅳ 自立(自律)心の育成						
	1 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・ 挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。	身だしなみにおける校則の変更により、女子生徒の身だしなみで新たな 指導の場面が見られている。引き続き校則に対する生徒周知について取 り組む必要がある。掃除は生徒が主体的に動く場面が非常に増え、学校 内の環境も整われている状態である。挨拶については徐々に自ら気持ち のよい挨拶をしてくれる生徒が増え、活気に満ちている。時間においては 公共交通機関の遅れの影響もあり、朝の遅刻の件数が増えている。時間 管理について生徒に定着させることを来年度の課題として取り組む。	生徒支援部	通年	△
		②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高 みを目指す)につなげる取り組みを実施する。	文武共に高みを目指す生徒が増えており、校内が活気に満ちてき始め た。 今後は個々の生徒の個別目標をより明確化させる取り組みを行う。	生徒支援部	通年	△
		③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの 順守を徹底させる。	自転車利用における事故・課題点が多いため、今後も継続して通学時 におけるマナーを指導していく。 学校行事の際に携帯電話の使用を一部認めていくことを実施したが、生 徒は約束を守り、SNSでの不適切と思われるような書き込みについて見 られなかった。引き続き啓発活動に努めていく。	生徒支援部	通年	△

主要項目		具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
	2 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営をすることで、体育祭、文化祭、協創コンテストなどの行事内容の充実を図る。	体育祭や文化祭など、生徒の企画を大きく反映させてきたことで自治会の活性化を図ることができた。また、振り返りに基づいて自ら運営していく体制が整ってきた。来年度は他の行事にも広がりを見せるように取り組んでいく。	生徒支援部	通年	○
		②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	全校朝礼や昼休憩時の放送の際には積極的に学校行事の募集や参加に呼びかけることができた。一方で自治会新聞などの発行までに時間を充てることができなかったため、今後は活動範囲を指定していくことを課題としている。	生徒支援部	通年	△
		③生徒目線での「校則見直し」を教員と一体となって取り組み、継続的に行う。	携帯電話や髪型については徐々に自然な形でルールを守ることを浸透させることができた。今後も課題を整理し、引き続き校則の改訂について考え直していく必要がある。	生徒支援部	通年	○
		④生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう、部活動加入についての啓発活動に取り組む。	生徒の多様な活動を反映し、校内部活動において部員数が減少している傾向がある。特に中学体育系部活動においては合同チームにての参加が目立つようになってきた。一方で生徒は限られた環境の中で意欲的に活動に取り組むことができている。	生徒支援部	通年	△
Ⅴ 教育力の向上						
	1 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。	研修主任を中心として、4回の初任者研修を行った。その中で初任者からの意見集約、メンターからの指導助言を行った。次年度はこれをもとに研修計画の見直し・拡充を図る。	教務部	通年	△
		②教育データを活用し、教員による「わかりやすい授業」から、生徒が「自ら考え学ぶ」ことを意識した授業展開における工夫に取り組むことで、生徒の主体性を育むことができる授業改善に取り組む（外部講師の支援による研修を通して実施）。	授業評価アンケートの結果は、本校では高偏差値帯が少なく、外発動機付けが強い「しっかりタイプ」「あきらめタイプ」の生徒が多いことが判明した。来年度は、生徒の内発動機づけを促す授業や取り組みができるよう具体的な方策を決めていく。	教務部	通年	○
	2 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する	今年度も授業担当者の打ち合わせ、指導案の作成、外部指導者からの指導を踏まえ、ほぼすべての教科で公開研究授業を実施することができた。	教務部	11月	○
	3 授業評価と授業アンケートの実施	①新たに設置する教育アドバイザーの指導・助言及び評価に基づき授業力の向上を図る。	元県立広島大学教授を教育アドバイザーとして招き、常勤・専任の授業観察を行った。実施後は振り返りを行い、授業改善に繋げている。夏季休業中にはミニ研修会を4種類にわたって行った。	教務部	通年	○
②授業力向上のため、生徒による授業アンケートを実施する。		10月21日(月)に授業評価アンケートを実施した。結果はコアネット教育研究所に分析を依頼し、1月22日(水)に全体研修で報告を受けた。研修の際には、来年度の授業で改善できるよう各教科で具体的な取り組みについて検討を行った。	教務部	6月・11月	○	
	4 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	新協創ルーブリックは完成したが、教科ルーブリックをブラッシュアップするには至っていない。一方で希望者対象にギミックブラッシュアップシートの研修を2回行い、一部は公開研での発表を行った。次年度はパフォーマンス評価による評価をきっかけとしてルーブリックの活用を促進していく。	教務部	通年	△
		②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。なお、アンケート項目については見直しをする。	現在第2回学校評価アンケートの集計・分析を実施しているところである。第1回と比較・分析したデータを全教職員に公開し、そのデータ分析研修は、教職員にとって今後の実践において非常に有意義なものになった。次年度も分析と共に取り組みについて考えていく。	教務部	7月・12月	△
	5 指導と評価の一体化の取り組み	①新学習指導要領の導入に伴って、学習指導と学習評価の一体化に取り組む。	新課程および新コースの設置に伴い、パフォーマンス課題の実施、観点別評価の整合性を整えていくための案を作成しており、管理職に提案中である。	教務部	通年	△

主要項目		具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
VI 生徒募集の充実						
1	戦略的広報活動の実施	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。また、中学入試に向けたミニオープンスクールを新たに実施する。	・OSの企画運営は中高ともに予定通り開催することができた。新しく取り入れた中学校のミニOSについて、5月開催のものは7月のOSに上手くつなげることができ、成功したと思う。8月開催のものはイベントの周知が十分ではなく、集客が今一つであった。また、7月OSのリピーターがほとんどであり、一定の成果はあったものの新規の獲得が課題として残った。高校第1回OSについては、悪天候のため午後の部が中止になったが、学校説明の動画を作成・配信することで対応した。 ・岩国地域相談会、夜の説明会・個別相談会は予定通り開催をすることができた。夜の説明会・個別相談会については参加者も多く、満足度も高いものにできたと考える。岩国地域相談会はイベントの周知が行き渡らず、岩国地域の受験生・保護者に協創のことを知ってもらおうという目的を十分に達成することができなかったが、志願者については学校数、志願	企画広報部	通年	○
		②ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。	・HPについてはブログやニュース等でリアルタイムに情報を発信することができた。しかし、コース変更に伴う学校情報等の整理、改修が今後の課題であり、早急に取り組んでいきたい。 ・Instagramは適宜更新することができ、在校生からのアクセスが多い様子ではあるがInstagramのフォロワーは2,100(昨年度末1,300)を超えた。また、Instagramを運営している部活動との連携、HP、Instagram、X、Facebook、YouTube等の役割を改めて確認し、運用することができた。 ・今年度新しく公式LINEを開設した。OSを中心に登録者数を増やすことができた(中学校:368、高校:351)が、一方で定期的な情報発信を行うことができなかった。次年度は部員の中で担当を設け、週1回を目標に定期的な情報発信を確実に実行していきたい。	企画広報部	通年	○
		③小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	・予定通り、年3回(塾によっては4回以上)中学校、塾へ訪問することができた。しかし、イベントの周知については課題が残ったため、次年度はイベントの周知が徹底できるよう、余裕をもった活動計画を作成する必要がある。 ・入試に関しては統一の説明資料を教頭先生の協力を受けて作成した。 ・初任者の訪問について、年度当初、他教員の訪問に同行し経験を積む予定であったが、実施できなかった。次年度、訪問前にロールプレイングを行い、訪問先での対応の練習を行う必要がある。 ・塾訪問にあたり、OS参加状況、入学状況等をまとめ、訪問担当者へ情報提供する予定であったが、できなかった。次年度以降は情報を収集、訪問担当者と共有し、より有意義な塾訪問を行っていきたい。	企画広報部	5月～11月	△
VII 学校組織力の強化						
1	組織体制の充実	①「凡事徹底、進取果敢。」を合い言葉にし、「協創」意識と同僚性を重視した組織を目指すため、中期事業計画に基づいた年度事業計画を踏まえて、各部が主体的に考え、行動できる体制を構築する。また、その振り返りを全教員で共有する。	学期ごとに学校長より組織・個々の取り組みについての状況や振り返りについて全体への周知を行った。また学年会や部会等を通じて、事業計画の進捗状況を確認し、今後の取り組みについて意見交換し、検討を行った。	全教職員	通年	○
		②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成し、実施する。	管理職を中心として、計画表を取りまとめ、2024年の振りかえりと、次年度の計画立案を同時並行で進めた。	教務部、管理職	通年	○
		③研修主任及び中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育体制の充実を図る。	新しいコース編成に伴い4年一貫コースは変更されるが、中高一貫生の動向は引き続き分析していく。	教務部	通年	○
2	人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、教職員の成長を支援する。	校長から示された年度目標に基づき各自が作成した協創シートをもとに、年3回(期初、中間、期末)の面談を行った。面談を通して、各教員が掲げた年間目標の達成状況を把握するとともに、必要に応じてアドバイスをを行った。8月にはキャリアアップ・システムの全体研修を行い、学年主任による今年度の目標管理面談を実施。適切な目標管理を確認し、2026年度から新規運用を行い、より具体的な人事評価を行う。	管理職	通年	○

主要項目		具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
Ⅷ 事務室の機能強化						
		①「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。	職員が年度初めに目標設定を行い、作成した「協創シート」をもとに、年3回(期初、中間、期末)の個別面談を実施した。面談において年間の目標を確認しながら進捗・達成状況について話し合いを行うことにより、職員個々のスキルアップに繋げる取り組みができた。	事務室	通年	○
		②教職協働の考え方にに基づき、事務職として学校経営に積極的に参画する意識の醸成を図る。	キャリアアップ面談などを通して、職員一人ひとりが教職協働の意識を持ち、学校経営に参画していくための意識を向上させることができた。	事務室	通年	○
		③施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。	施設・設備中長期保全計画に基づき、計画通りに改修を行った。本年度は2号館食堂の照明及び家具の更新等を実施した。	事務室	通年	○
		④教職員の勤務管理を適切に行うと共に、健康の保持増進に努める。	教職員が生き生きと働くことができる職場環境を構築するため、一人ひとりの勤務状況を正確に把握し、適切な時間外勤務となるように努めた。また、年次有給休暇の取得状況の確認を随時行うことにより、確実に年休を取得するよう勤務管理を行った。	事務室	通年	○